

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人当たりの在籍数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理学療法士または作業療法士	助手			
							数				
医学科学部 作業療法学科	4人	4 人	2 人	0 人	10 人	6 人	8人	0 人	46人	7.5 人	
計	4 人	4 人	2 人	0 人	10 人	6 人	8人	0 人	46人	－	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	3
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努 めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努 めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めてい ない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 （基礎・専門基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
		哲学	15	榊原 健太郎	兼任
		倫理学B	15	内藤 可夫	兼任
		心理学A	15	古賀 賀恵	兼任
		心理学B	15	古賀 賀恵	兼任

基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	歴史学B	15	堀 智博	兼任
		日本国憲法	15	塚林 美弥子	兼任
		社会学	15	鈴木 将平	兼任
		文化史A	15	塚林 美弥子	兼任
		文学A	15	吉田 和久	兼任
		数学Ⅰ	15	松本 ディオゴけんじ	兼任
		統計学	15	松本 ディオゴけんじ	兼任
		物理学Ⅰ	15	小杉 俊男	兼任
		化学Ⅰ	15	石田 良仁	兼任
		生物学Ⅰ	15	小出 哲也	兼任
		情報Ⅰ	15	小山田 隆信	兼任
		情報Ⅱ	15	小山田 隆信	兼任
		英語Ⅰ	15	伊東 哲	兼任
		英語Ⅱ	15	古本 真	兼任
		教養英語A	15	小堀 馨子	兼任
		教養英語B	15	小堀 馨子	兼任
		中国語Ⅰ	15	董 丹犁	兼任
		韓国語Ⅰ	15	李 松	兼任
		健康と生活	15	井上 聡 他	兼任、兼任
		健康体育A	15	小山 慎一 他	兼任、兼任
		健康体育B	15	小山 慎一 他	兼任、兼任
		基礎ゼミ	15	黒川 喬介 他	専任

専門基礎	人体の構造と機能及び心身の 発達	人体の構造と機能Ⅰ	15	本間 信生	専任
		人体の構造と機能Ⅰ実習	23	大石 仁 他	兼任
		人体の構造と機能Ⅱ	15	本間 信生	専任
		人体の構造と機能Ⅱ実習	23	大石 仁 他	兼任
		人体の構造と機能Ⅲ	15	大石 仁	兼任
		人体の構造と機能Ⅲ実習	23	三枝 岳志 他	専任、兼任、兼任
		基礎医学応用	8	本間 信生	専任
		運動学	15	長谷川 辰男	専任
		運動学実習	23	長谷川 辰男	専任
		人間発達学	15	大西 正二	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回 復過程の促進	医学概論	15	田中 和哉 他	専任、兼任、兼任
		臨床心理学	8	鈴木 幹夫	専任
		内部障害と臨床医学Ⅰ	15	萩原 宏毅	専任
		内部障害と臨床医学Ⅱ	8	萩原 宏毅	専任
		骨関節障害と臨床医学Ⅰ	15	岩瀬 洋樹	兼任
		神経・筋系障害と臨床医学Ⅰ	15	萩原 宏毅	専任
		神経・筋系障害と臨床医学Ⅱ	8	萩原 宏毅	専任
		精神障害と臨床医学	15	鈴木 幹夫	専任
		小児の障害と臨床医学	8	小林 千尋	兼任
		スポーツ障害と臨床医学	8	井上 聡 他	兼任、兼任

		老年期障害と臨床医学	8	萩原 宏毅	専任
		救急医学実践論	8	井上 聡 他	専任、兼担、兼任
		病理学	8	近藤 哲夫 他	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの 理念	多職種連携論	8	舩山 朋子 他	専任、兼担、兼任
		リハビリテーション概論	15	入野 隆仁 他	兼任
		保健医療福祉論	8	舩山 朋子 他	専任、兼任
		公衆衛生学	8	井上 聡	兼担
		リハビリテーション工学	8	村田 知之	兼任
		カウンセリング実践論	8	竹田 葉留美	兼任
		QOL・ターミナルケア論	8	渡辺 長	兼担
		リハビリテーション医療英語	8	渡辺 長 他	兼担

専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	舩山 朋子	専任
		作業療法基礎技法学	15	大関 健一郎 他	専任
		作業療法基礎技法学実習	23	大関 健一郎 他	専任
		作業療法研究法	15	澤田 有希	専任
		作業療法研究法応用	15	澤田 有希 他	専任
		作業分析	15	竹嶋 理恵	専任
		医療統計学	8	澤田 有希	専任
		作業療法理論	15	澤田 有希 他	専任
		環境と健康	8	舩山 朋子	専任
	作業療法管理学	職場・安全管理学	8	小橋 一雄	専任
		作業療法教育・職業倫理	15	小橋 一雄	専任
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	15	黒川 喬介 他	専任
		作業療法評価学Ⅱ	15	長谷川 辰男 他	専任
		作業療法評価学Ⅲ	15	大西 正二	専任
		作業療法基礎評価学	15	竹嶋 理恵 他	専任、兼任
		作業療法評価学実習	23	小橋 一雄 他	専任、兼任
	作業療法治療学	義肢装具に関わる作業療法	8	竹嶋 理恵 他	専任、兼担、兼任
		住環境整備・支援機器と作業療法	15	竹嶋 理恵 他	専任
		生活活動論基礎	15	竹嶋 理恵	専任
		生活活動論応用	15	竹嶋 理恵	専任
		身体障害の作業療法基礎	15	長谷川 辰男	専任
		身体障害の作業療法応用	15	長谷川 辰男	専任
		高次脳障害の作業療法	15	小橋 一雄 他	専任、兼任
		老年期障害の作業療法基礎	8	小橋 一雄	専任
		老年期障害の作業療法応用	15	小橋 一雄	専任
		精神障害の作業療法基礎	15	黒川 喬介 他	専任
		精神障害の作業療法応用	15	大関 健一郎 他	専任、兼任
		子どもの作業療法基礎	15	大西 正二	専任
		子どもの作業療法応用	15	大西 正二	専任
		ハンドセラピィ実践論	15	齋藤 和夫 他	兼任、専任
		認知症の作業療法	8	小橋 一雄	専任

	地域作業療法学	地域作業療法	15	船山 朋子	専任
		在宅作業療法	15	樽嶋 理恵	専任
		社会生活支援における作業療法	8	船山 朋子	専任
	臨床実習	早期臨床実習	23	黒川 喬介 他	専任
		臨床実習Ⅰ	68	黒川 喬介 他	専任
		臨床実習Ⅱ	90	大関 健一郎 他	専任
		臨床実習Ⅲ	180	黒川 喬介 他	専任
		臨床実習Ⅳ	180	大関 健一郎 他	専任
		臨床実習Ⅴ	23	大関 健一郎 他	専任
		実習セミナー	23	大関 健一郎 他	専任
		人間情報処理	15	大関 健一郎 他	専任
		ロボットと医療福祉	8	梶谷 勇 他	兼任、専任
		アニマルセラピー概論	15	門多 真弥 他	兼任
		動物人間関係工学	15	リングホーファー 萌奈美	兼任
		作業療法特論	8	大関 健一郎 他	専任、兼任
		リハビリテーション特論Ⅰ	15	黒川 喬介 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅱ	15	澤田 有希 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅲ	15	澤田 有希 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅳ	15	小橋 一雄 他	専任
		リハビリテーション特論Ⅴ	15	小橋 一雄 他	専任、兼任
		リハビリテーション特論Ⅵ	15	小橋 一雄 他	専任、兼任
		乗馬療法技術概論	15	石井 孝弘	兼任
		動物介在療法のための感覚統合	8	大関 健一郎 他	専任、兼任
		教育学Ⅰ	15	宇佐美 健	兼任
		教育学Ⅱ	15	大西 圭介	兼任
		国際医療活動	8	渡辺 長	兼任
		卒業研究	45	小橋 一雄 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記し ている。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記して い る。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	旧開講時期 (2024年まで適応)	関連講義名	開講時期
早期臨床実習 作業療法関連施設における、作業療法士および その他の専門職種への役割・業務の見学	1 年前期	作業療法学概論	1 年前期
		基礎ゼミ	1 年前期
臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 作業療法の各種評価方法の見学と実践	2 年前後期	作業療法評価学Ⅰ	2年前期
		作業療法評価学Ⅱ	2年前期
		作業療法評価学Ⅲ	2年後期
		作業療法基礎評価学	2年前期
		作業療法評価学実習	2年後期
臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ	2 年前期 から 3 年前期	義肢装具に関わる作業療法	3年前期
		住環境整備・支援機器と作業療法	3年前期
		生活活動論基礎	2年前期
		生活活動論応用	2年後期
		身体障害の作業療法基礎	2年後期
		身体障害の作業療法応用	3年前期
		高次脳障害の作業療法	3年前期
		老年期障害の作業療法基礎	2年後期
		老年期障害の作業療法応用	3年前期

臨床実習Ⅴ 作業療法の治療の見学と実践		精神障害の作業療法基礎	2年後期
		精神障害の作業療法応用	3年前期
		子どもの作業療法基礎	2年後期
		子どもの作業療法応用	3年前期
		地域作業療法	2年後期
		在宅作業療法	2年後期
		社会生活支支援における作業療法	3年前期
		ハンドセラピー実践論	3年前期
		認知症の作業療法	3年前期
作業療法の評価・治療・管理業務等の 総合的な 実践	2年後期から 3 年前期	作業療法教育・職業倫理	2年後期
		職場・安全管理学	3年前期

臨床実習の見学又は実践する範囲	(新) 開講時期 (2025年以降適応)	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ 作業療法関連施設における，作業療法 士および その他の専門職種の役割・業 務の見学	1 年前期	作業療法学概論	1 年前期
		基礎ゼミ	1 年前期
臨床実習Ⅱ、Ⅲ 作業療法の各種評価方法の見学と実践	2 年前後期 から3年前期	作業療法評価学Ⅰ	2年前期
		作業療法評価学Ⅱ	2年前期
		作業療法評価学Ⅲ	2年後期
		作業療法基礎評価学	2年前期
		作業療法評価学実習	3年前期
		義肢装具に関わる作業療法	3年前期
		生活支援機器学	3年前期
		生活活動学基礎	2年後期
		生活活動学応用	3年前期
		身体障害の作業療法基礎	2年後期
		身体障害の作業療法応用	3年前期
		高次脳機能障害の作業療法	3年前期

作業療法の治療の見学と実践 臨床実習Ⅳ.V地域実習	2年後期と3年後期期	老年期障害の作業療法	3年前期
		精神障害の作業療法基礎	2年後期
		精神障害の作業療法応用	3年前期
		子どもの作業療法基礎	2年後期
		子どもの作業療法応用	3年前期
		地域作業療法	2年後期
		在宅作業療法	3年後期
		社会生活支援学	3年前期
		作業療法技術演習	3年前期
		認知症の作業療法	3年後期
作業療法の管理業務等の 総合的な実践	3 年前期	作業療法教育・職業倫理	3年前期
		職場・安全管理学	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	冲永 莊八
組織の開催頻度	年2回開催
組織の取り組み	・国家試験合格率の向上
	・学習環境の整備
	・配慮を必要とする学生についての支援の強化・拡充
	・学習習慣の無い学生に学習習慣を身につけさせる
	・生活習慣の身についていない学生に対する学修支援の拡充
	・履修科目の単位修得を確実にを行うための支援を充実させる
	・学生からの意見を授業、その他学修支援の取組みに活かす
	・多様な学生が、それぞれに成長を自覚し、満足感を持って卒業できることを目指す
	・教養教育に対する理解の増進と履修指導体制の充実
	・高大接続の課題としての授業への適応支援と有効な支援方法の検討 ・e-ラーニングを活用した自主学習の仕組みの整備
自己点検・評価結果の公表	H P で公表

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではな い。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検評価においては、概ね満たしている。今後も引き続き臨床業務及び、研究と、研修会などをを通じて自己研鑽し教育活動に邁進いたします。
